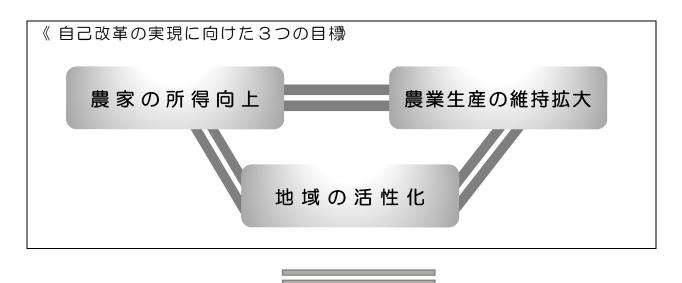
JA尾張中央自己改革の取組み



◇ 自己改革進捗状況報告

JA尾張中央では、食と農を基軸とした『地域になくてはならないJAづくり』のために自己改革に取組んできました。

これまでの自己改革への取組みとその成果をご報告いたします。



1. 担い手世帯への訪問活動

2. 中核的・多様な担い手への対応

3. 新規就農者の育成・支援

"地域になくてはならない

4. 産直出荷者への対応

5. 農機具等のサポート

JAづくり"の ための取組み

6. 地元農産物の販売力強化

7. 生産資材の価格低減

8. 地域農業の発展に寄与で きる職員の育成

9. 地域農業応援団化の取組み



1. 担い手世帯への訪問活動

地域の 活性化

- ◇ 平成29年度は355件、平成30年度は843件、認定農業者・生産者部会員・産 直出荷者・育苗及びライスセンター利用者を対象先世帯として、自己改革の進捗状況 の報告と「ヒアリングシート」を基に面談し、ご意見・ご要望等を聴取しました。主 なご意見・ご要望等は広報誌「ふれあい」に掲載しました。
- ◇ 平成31年度も組合員訪問活動は重要な活動と位置づけ、聴取したご意見・ご要望を 事業運営に反映してまいります。





2. 中核的・多様な担い手への対応

農家の 所得向上 農業生産の 維持・拡大

- ◇ 果樹産地パワーアップ事業により防風網・防鳥網の設置助成を実施しました。 6件 660万円
- ◇ 農産物端境期対策のためパイプハウス導入助成を実施しました。 5件 220万円
- ◇ 平成31年度は、ビニールパイプハウス助成及び耕種的防除施設設置資材等の助成を 予定しています。

10件 300万円

- ◇ スクミリンコガイ(ジャンボタニシ)の被害が年々増加傾向にあるため、被害の拡大 防止策として、スクミリンコガイ駆除用水稲農薬「スクミノン」予約注文者に対し助 成を実施しました。
- ◇ 平成31年度農地中間管理事業については、政府による農地バンクの運営見直しにより、現在行っている「農地集積円滑化事業」などを統合一体化し、「農地中間管理事業」による農地の集積・集約化に取組む予定です。

3. 新規就農者の育成・支援

農業生産の 維持・拡大 地域の 活性化

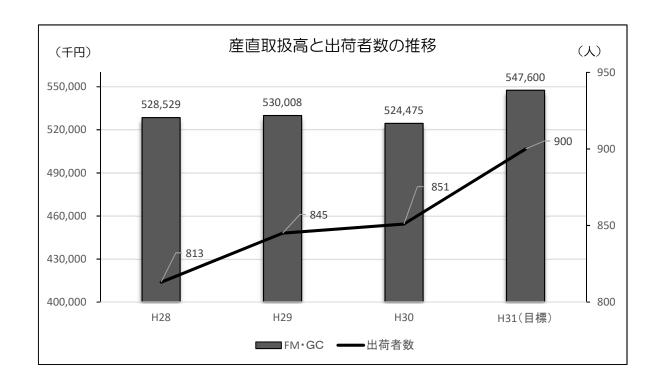
- ◇ 新規就農者・新規認定農業者に対する農業塾での各種栽培研修の開催と営農計画書の 作成支援、併せて親元就農応援事業を実施しました。
- ◇ 平成31年度は、新規就農者に対する営農相談を実施(果樹の経営モデルを作成)し、 支援を強化します。

4. 産直出荷者への対応

農家の 所得向上

農業生産の 維持・拡大

- ◇ 地産地消運動の拠点として、「ファーマーズマーケットぐっぴぃひろば」・「グリーンセンター」を4店舗運営しています。農家の所得向上の一翼を担うほか、生産者の栽培意欲の向上、地元野菜のアピールに貢献しています。
- ◇ 生産者部会員に農作業の安全作業啓発帽子を 1,000 個配布しました。
- ◇ 平成31年度は、産直取扱高5億4,760万円を目標に取組みます。



5. 農機具等のサポート

農家の 所得向上 農業生産の 維持・拡大

- ◇ 野菜栽培農家及び家庭菜園向けの小型管理機のレンタルを、小牧東部営農生活C・小牧西部営農生活C・春日井営農生活C・春日井東部営農生活Cの4センターで開始しました。
- ◇ 農作業の軽減化、効率化を図るために小牧東部営農生活センターにバックホーを1 台追加配備し、レンタルを開始しました。
- ◇ 農機自動車SCでは中古農機の展示・販売を行い、性能・価格等の詳細情報を「ふれあい」の折込チラシや、ホームページで閲覧できる仕組みを構築します。

6. 地元農産物の販売力強化

農家の 所得向上 農業生産の 維持・拡大

◇ 生産者の顔が見える取組みとして、桃・いちじく・柿生産部会員による店頭対面販売を行いました。





≪計画作付品目延べ取組者数》

年 度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
取組者数	179 人	299 人	251 人

- ◇ 「ファーマーズマーケットぐっぴぃひろば」において、食育ソムリエによる地元農産物を使った試食・提案に取組んでいます。
- ◇ 平成31年度は、地元産米の販売チャネルの拡大方策として、地元企業・施設等への 地元産米の販売を強化します。

7. 生産資材の価格低減

農家の 所得向上 農業生産の 維持・拡大

- ◇ ホームセンター等で価格調査を行い、商系との価格比較による値下げを実施、併せて、 予約購買品の引取り(持ち帰り)価格を設定し価格低減に取組んでいます。その結果、 水田10a 当たりの生産コストが平成28年度の12,490円から10,820円、 約13%のコスト削減を実現しました。
- ◇ 平成31年度は、近隣JAとの事業検討会を行い、仕入・流通の改善に取組み生産資材の価格低減をめざします。

≪農薬の主な一例≫・・・・・平成31年4月より63品目引き下げました。

(単位:円)

品名	規格	旧当用価格	新当用価格	予約引取価格	価格差
00台		(A)	(B)	(C)	(C-A)
アドマイヤー1 粒剤	950g	1,460	1,270	1,190	△270
イチバン	500ml	1,930	1,830	1,780	△150
クリンチャーEW	100ml	1,970	1,800	1,650	∆320
クロレートS粒 50	5kg	2,410	2,300	2,130	△280
スミチオン乳剤	500ml	1,270	1,240	1,100	△170

※平成31年度水稲・園芸農薬予約申込書ご注文分より新価格を適用しています。

8. 地域農業の発展に寄与できる職員の育成

農業生産の 維持・拡大

- ◇ 営農相談員・営農専門員・農業検定試験などの資格取得により、高度化かつ専門化 する営農相談に対応するための支援体制の構築に取組みました。
- ◇ 平成31年度も引き続き、組合員の意見・要望を職員間で情報共有するとともに、 組合員の期待に応え得る職員の育成に取組みます。

9. 地域農業応援団化の取組み

農家の 所得向上 地域の 活性化

◇ 園児・小学生を対象とした農業体験による食農教育活動(稲作・サツマイモ・大豆収穫(豆腐作り)体験など)に取組んでいます。







◇ 「ファーマーズマーケットぐっぴぃひろば」を中心とした親子農業体験に取組んでいます。

《FMぐっぴぃひろば親子農業体験参加者数》

年 度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
参加者数	70 人	137 人	175 人

◇ 中部大学と連携した農業研修(学生による子どもへの農業体験指導・地元農産物を使った料理提案・開発など)に取組んでいます。





- ◇ 桃栽培サポータークラブ養成講座を開催し、サポータークラブ員23名による援農作業の実施(摘果・袋掛け)に取組んでいます。
- ◇ 平成31年度も引き続き、「食」が持つ多様な役割の大切さを伝え、「食」を支える 根本である農業に関する知識・体験も含んだ「食農教育」の大切さを伝えていき ます。